

# 6 製材・加工体制の整備

## (1) 製材・加工体制の現状

国産材を扱う製材工場は、依然として中・小規模なものが多い状況。  
 主要構造部材に占める人工乾燥材の生産割合は、約4割。

規模別製材工場数(平成18年)

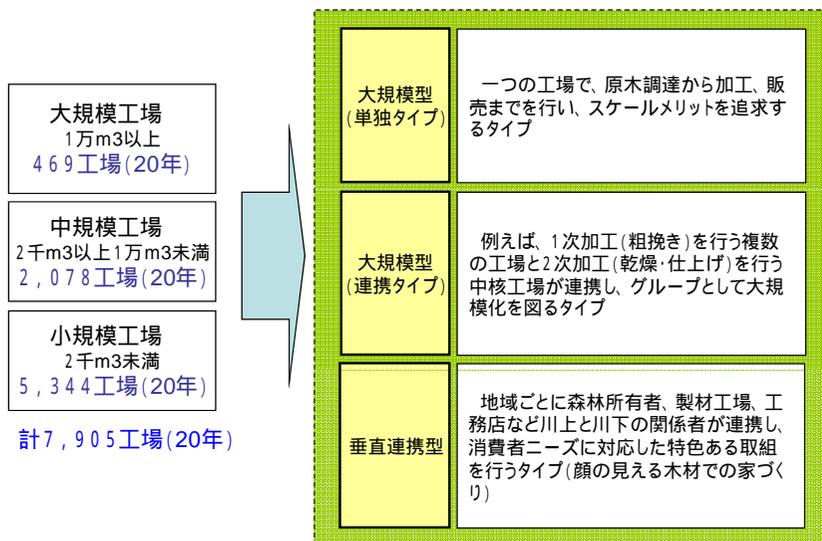
(単位:工場)

出力階層	国産材のみ	国産材と外材	外材のみ	計
7.5～75kw (小規模)	3,539	1,773	437	5,749
75～300kw (中規模)	1,095	784	326	2,205
300kw以上 (大規模)	263	113	103	479
計	4,897	2,670	866	8,433

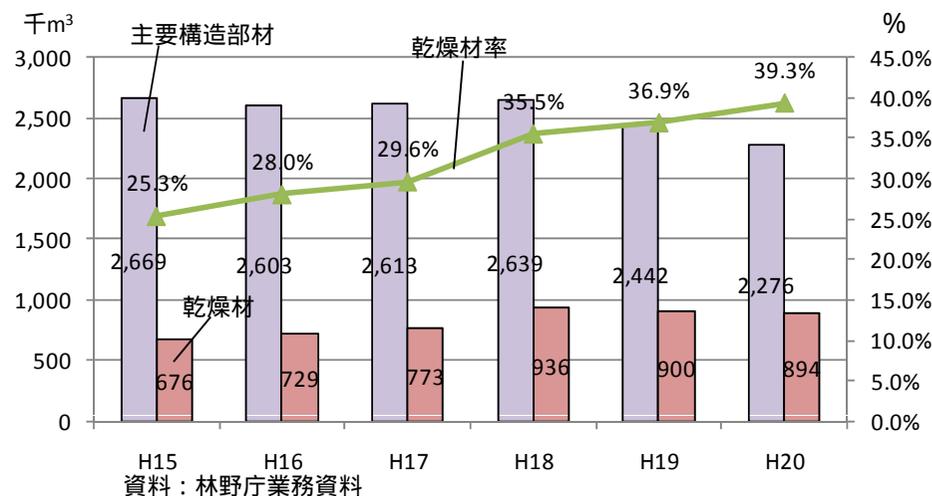
資料：農林水産省「平成18年木材需給報告書」

注：製材工場出力数と原木の年間消費量の関係の目安は、75kw未満が2千m<sup>3</sup>未満、75～300kwが2千～1万m<sup>3</sup>、300kw以上が1万m<sup>3</sup>以上。

### 規模別の整備方向のイメージ



主要構造部材(ひき角類、構造用集成材(国産材))  
 に占める人工乾燥材の割合(推計)



注) 主要構造部材は、農林水産省「木材需給報告書」の製材品(建築用材)ひき角類出荷量と日本集成材工業組合調べによる構造用集成材の国内生産量をもとに推計・計上。なお、H19、20については、H18までの乾燥材率等をもとに推計。

資料：農林水産省「平成20年木材統計」、「平成18年木材需給報告書」

注：1) 材積は、年間原木消費量。

2) 製材工場出力数と原木の年間消費量の関係の目安は、以下のとおり。

- 75kw未満 : 2千m<sup>3</sup>未満
- 75kw以上300kw未満 : 2千m<sup>3</sup>以上1万m<sup>3</sup>未満
- 300kw以上 : 1万m<sup>3</sup>以上

一定規模以上の工場と比較すると、外材工場より国産材工場の方が素材入荷量は小規模。  
 工場の規模が大きくなれば扱う素材の量は増加し、生産性が向上すれば加工経費の減少が可能。

### 製材用動力の出力階層300.0kW以上の工場の素材入荷量

	工場数 (工場)	入荷量 (千m <sup>3</sup> )	平均素材 入荷量 (千m <sup>3</sup> /工場)
国産材のみ	263	4,600	17.5
外材のみ	103	5,061	49.1

資料：農林水産省「平成18年 木材需給報告書」

### 製材工場の1kw当たり原木消費量の推移

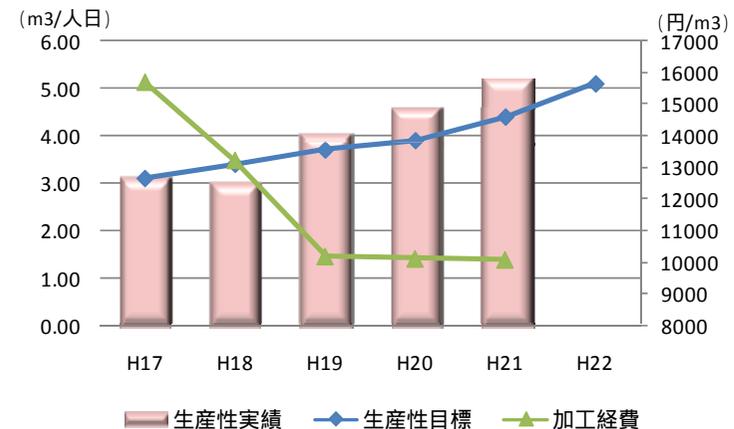
(単位: m<sup>3</sup>/kw)

出力階層	S61	H3	H8	H13	H18
7.5～75kw	24	24	22	16	14
75～300kw	34	35	31	23	21
300kw以上	36	38	37	32	36
平均	31	32	30	24	25

資料：農林水産省「木材需給報告書」

注：製材工場出力数と原木の年間消費量の関係の目安は、75kw未満が2千m<sup>3</sup>未満、75～300kwが2千～1万m<sup>3</sup>、300kw以上が1万m<sup>3</sup>以上。

### 新生産システムモデル地域における加工生産性等の事例



注：H21.9.30現在における調査(暫定値)で、H21年度分は見込み

# 大規模製材工場等の国内分布(H20年)

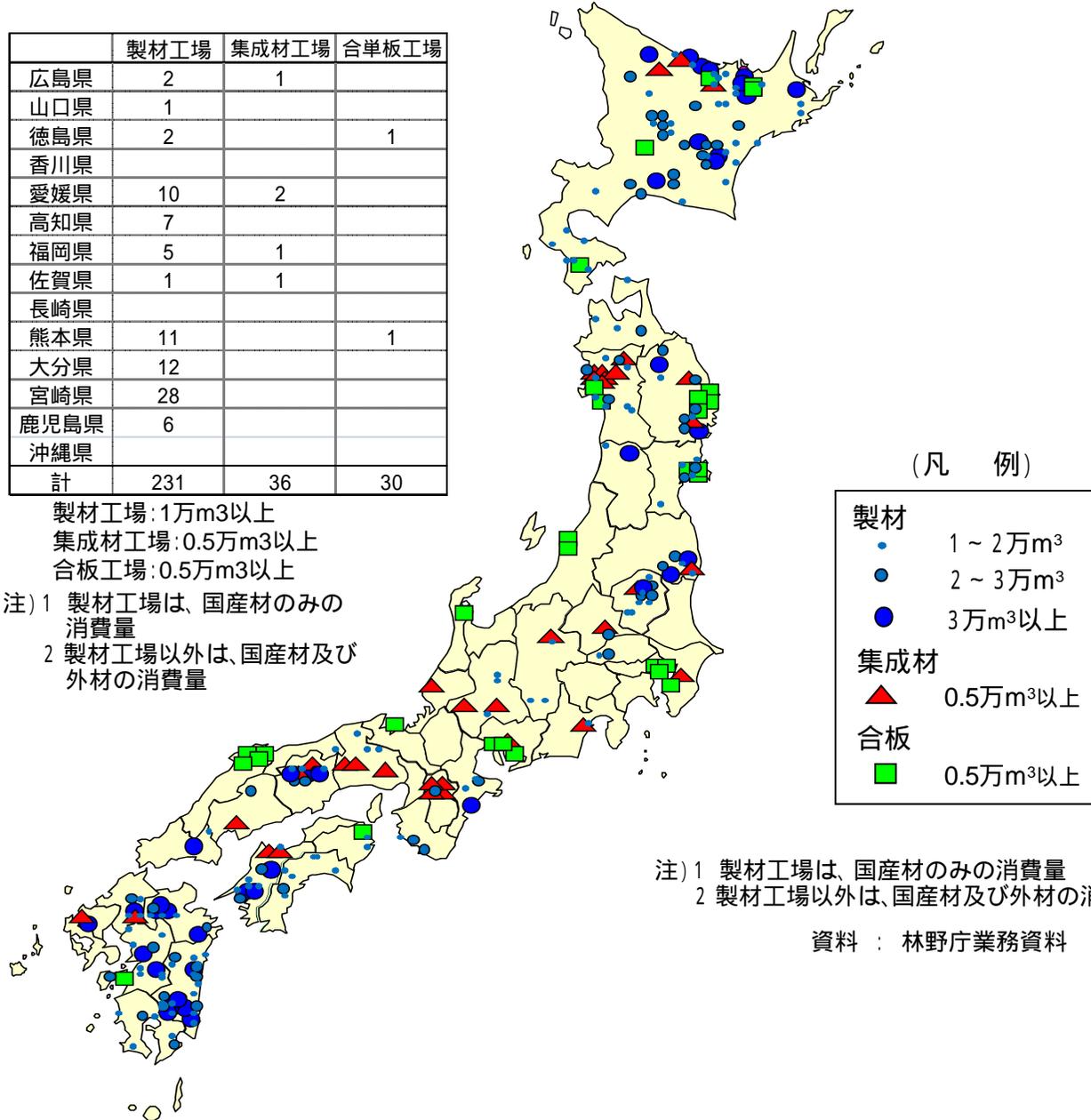
地域における森林資源、施設の整備状況等を踏まえつつ、製材・加工などの施設整備を図っていく必要。

	製材工場	集成材工場	合単板工場
北海道	63	3	4
青森県	4		
岩手県	11	2	4
宮城県	6		3
秋田県	10	7	2
山形県	2		
福島県	7	1	
茨城県			
栃木県	10	2	
群馬県	1		
埼玉県	2		
千葉県		1	2
東京都			2
神奈川			
新潟県			2
富山県			
石川県			1
福井県		1	
山梨県			
長野県	3	1	
岐阜県	3	2	
静岡県	2	1	
愛知県		1	3
三重県	4		
滋賀県			
京都府			1
大阪府			
兵庫県	3	3	
奈良県	1	4	
和歌山県	3		
鳥取県	1		1
島根県			3
岡山県	10	2	

	製材工場	集成材工場	合単板工場
広島県	2	1	
山口県	1		
徳島県	2		1
香川県			
愛媛県	10	2	
高知県	7		
福岡県	5	1	
佐賀県	1	1	
長崎県			
熊本県	11		1
大分県	12		
宮崎県	28		
鹿児島県	6		
沖縄県			
計	231	36	30

製材工場:1万m<sup>3</sup>以上  
 集成材工場:0.5万m<sup>3</sup>以上  
 合板工場:0.5万m<sup>3</sup>以上

注) 1 製材工場は、国産材のみの消費量  
 2 製材工場以外は、国産材及び外材の消費量



(凡 例)

製材  
 ● 1～2万m<sup>3</sup>  
 ● 2～3万m<sup>3</sup>  
 ● 3万m<sup>3</sup>以上

集成材  
 ▲ 0.5万m<sup>3</sup>以上

合板  
 ■ 0.5万m<sup>3</sup>以上

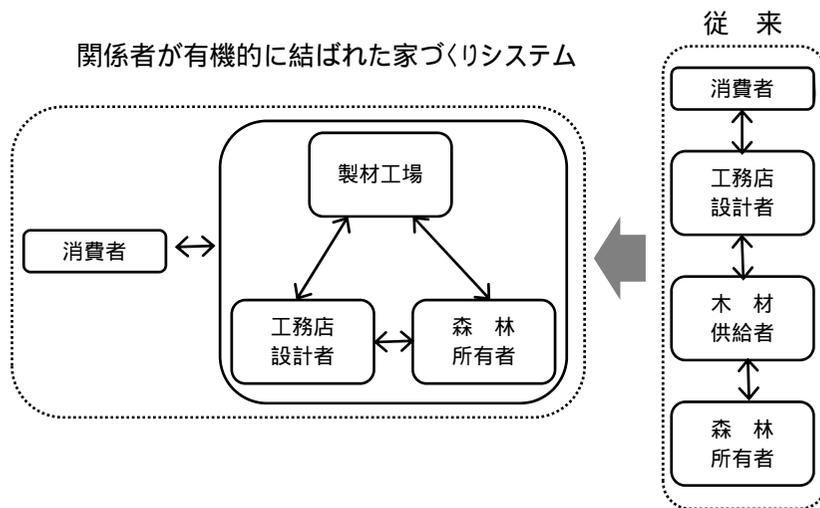
注) 1 製材工場は、国産材のみの消費量  
 2 製材工場以外は、国産材及び外材の消費量

資料 : 林野庁業務資料

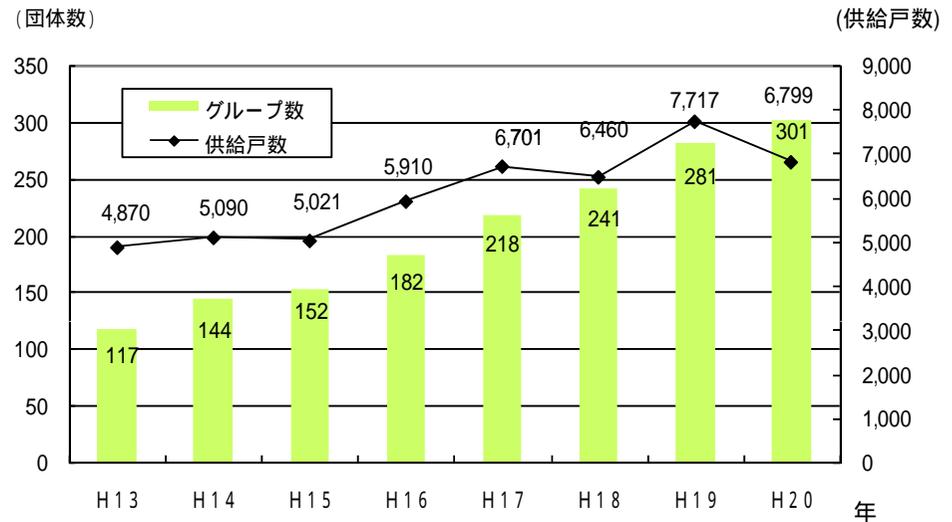
## (2)「顔の見える木材での家づくり」

地域ごとに森林所有者、製材工場、工務店など川上と川下の関係者が連携し、「顔の見える木材での家づくり」といった消費者ニーズに対応した特色ある取組を行うことが必要。

### 「顔の見える木材での家づくり」における関係者連携のイメージ



### 「顔の見える木材での家づくり」グループ数等の推移



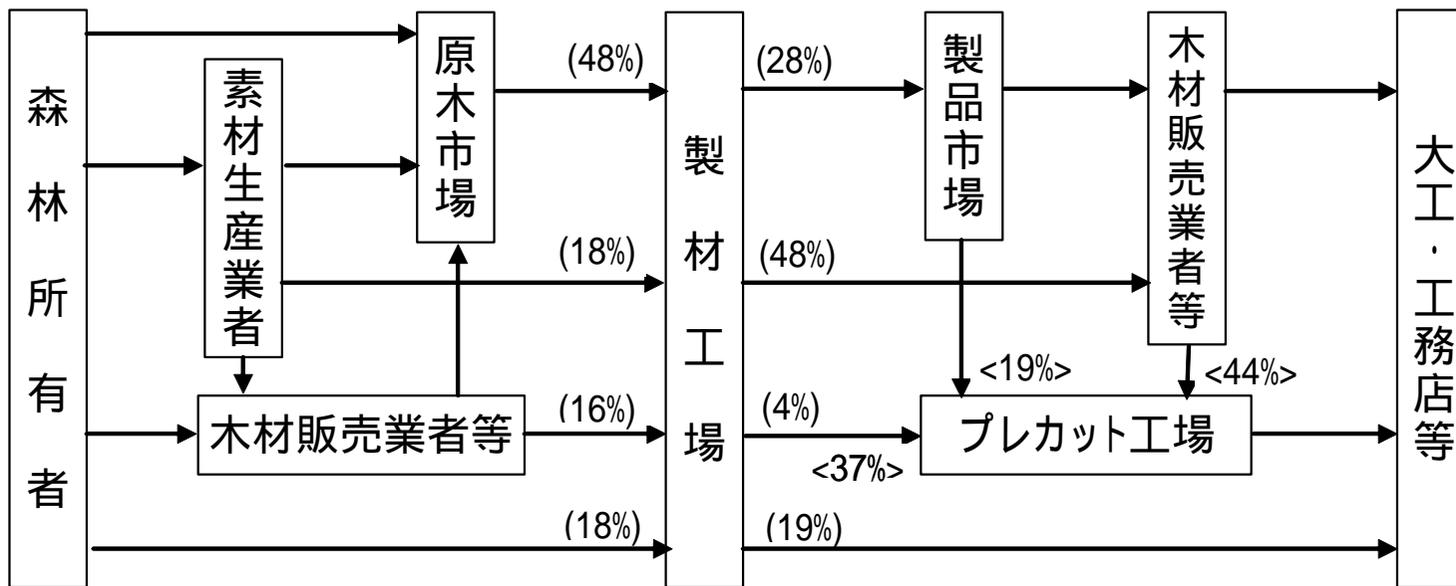
資料: 林野庁業務資料

# 7 木材の流通構造

## (1) 木材流通の現状

国産材の流通は、依然として小規模かつ分散的で多段階を経る構造。  
 需要者ニーズに的確かつ迅速に対応できるよう、流通の効率化の取組みが重要。

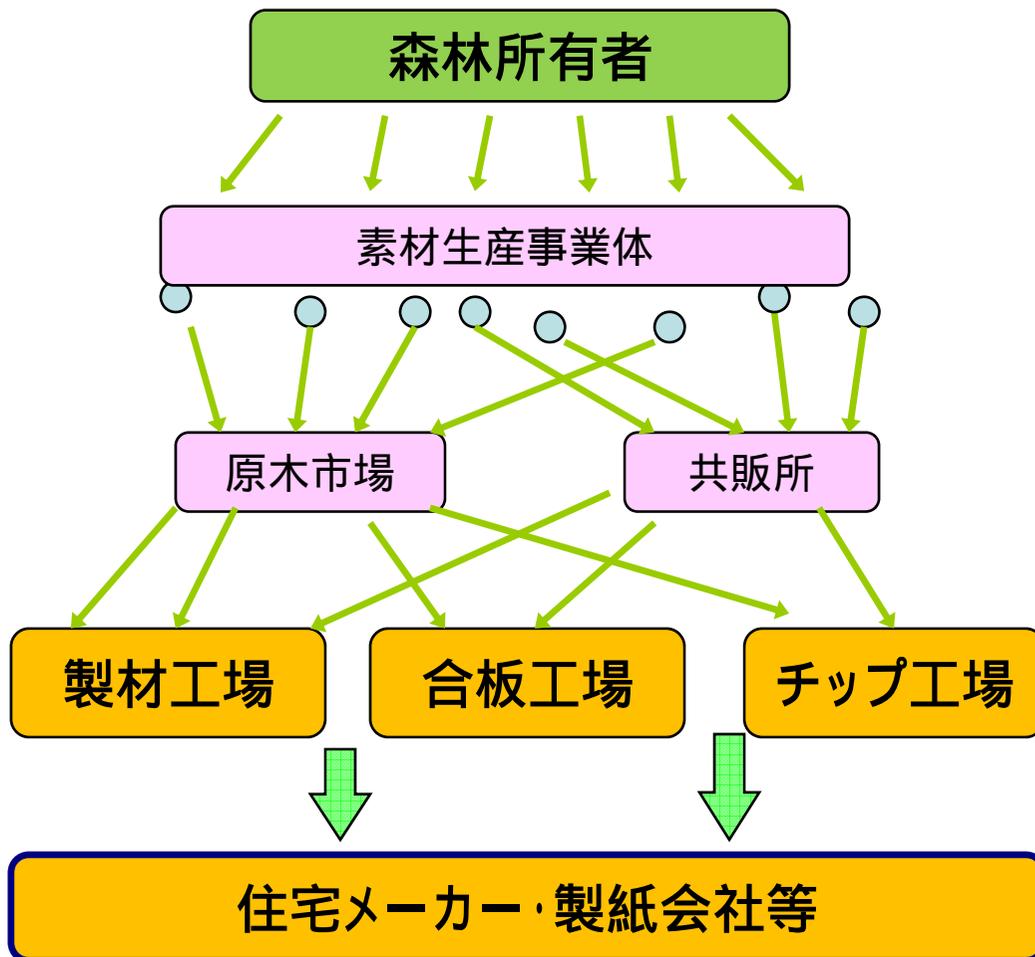
国産材の流通構造



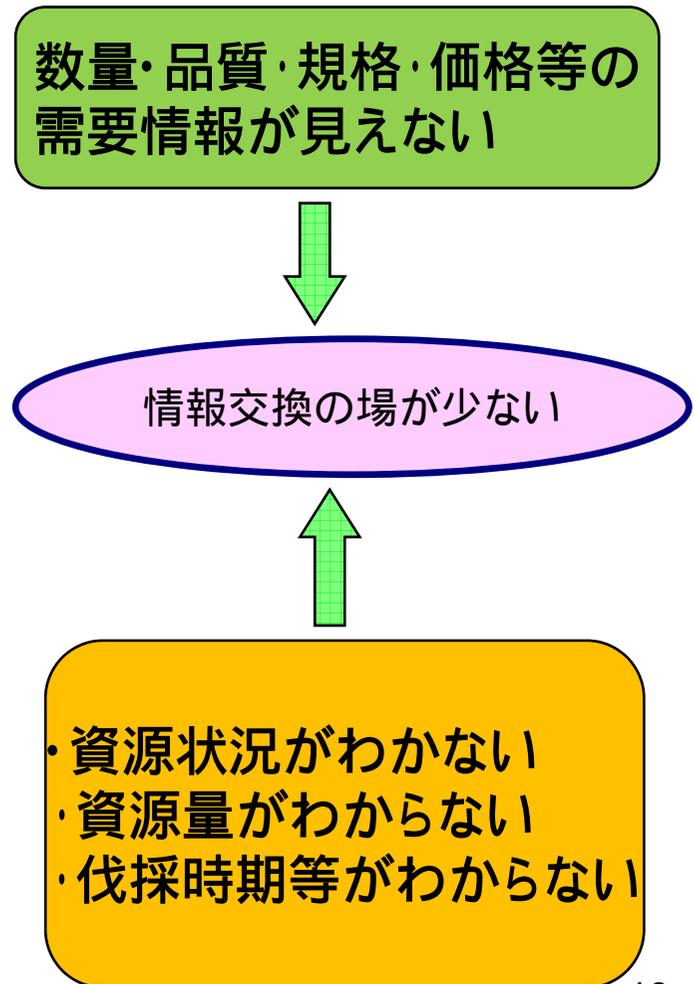
資料：農林水産省「木材流通構造調査報告書(平成18年)」を基に作成  
 注：1) ( )は製材工場の入・出荷先別割合  
 2) < >はプレカット工場の入荷先別割合

供給・需要双方の情報が伝わりにくく、情報交換の場も少なく、需給のミスマッチが生じている。  
マッチングによる原木の安定供給体制の整備などの取組みが重要。

### (流通イメージ)



### (問題点)

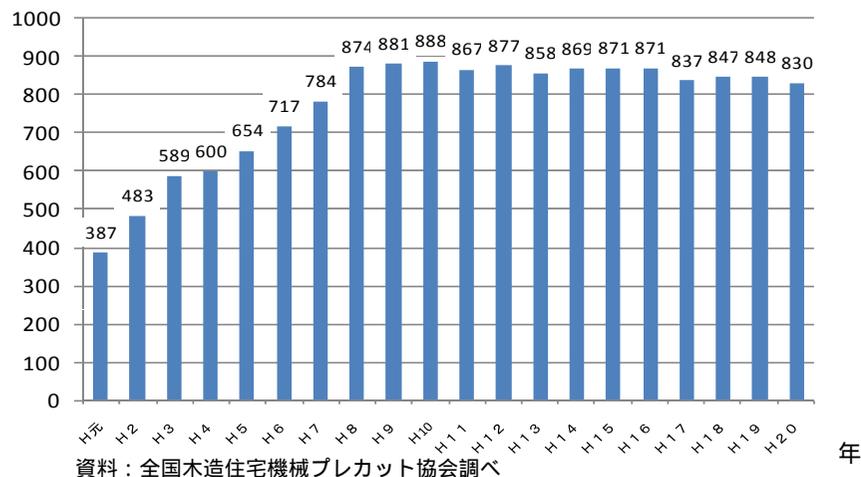


## (2) プレカット、ホームセンター

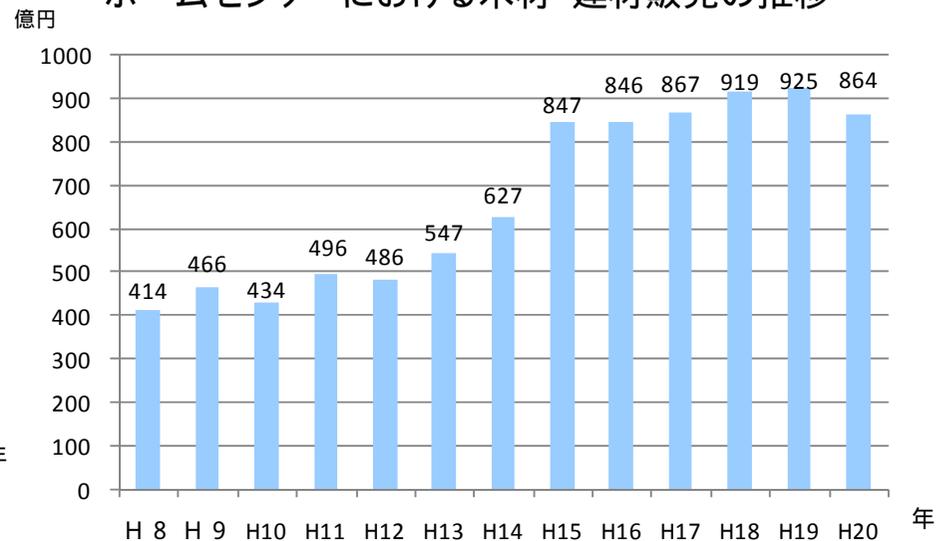
プレカット工場数は横ばいであるが、プレカットの進展により、在来工法住宅のうちプレカット材を使用した住宅は約8割。

ホームセンターについては、定価販売、木材以外も含めた多様な品揃え、ワンストップサービスなどの利便性から、売り上げが増加傾向。

### プレカット工場数の推移



### ホームセンターにおける木材・建材販売の推移



### プレカット材を利用した在来工法住宅シェアの推移

